主イエス･キリストの　　年　　月　　日（　）聖書箇所：創世記 ２：１８－２５（P. 5）

＜霊的備え＞

あなたは　人を御使いよりわずかに欠けがあるものとし
これに栄光と誉れの冠をかぶらせてくださいました。
あなたの御手のわざを人に治めさせ　万物を彼の足の下に置かれました。　（詩篇 8:5―6）

＜理解の手引き＞

ここは、女の創造について記されています。神は、何故「人がひとりでいるのは良くない」と思われたのでしょうか。それは、神のかたちに造られた人間は、人格的な関わりをもとめ、愛する対象を必要とするからです。人は最初から人格者として、他の人格者と交わって生きるように造られていたのです。また、人は、一人では神のみこころを完全に行うことができないからです。男と女が互いに愛し合い結び合わされることを通して、神は彼らに子孫を与えられるのです。女性が人（アダム）に与えられた時，人は女性を〈私の骨からの骨、私の肉からの肉〉(23) と告白しました。「骨肉」という句は血縁関係を表しますが（士9：2)、最初の人アダムにとっては、女性は骨肉の最上級、「骨からの骨」「肉からの肉」であり、文字通り一心同体であったのです。それは「一つの肉に由来する人格の本質に基づく親近感、または第二の自分」を意味しています。そして、本来一つの存在であった男に女が与えられ、二つの存在となり、その二つの存在が結婚において一体化するのです。

＜考えてみよう＞

（観察）神は、どのようにして、人の助け手としての女を造られましたか？

（解釈）何故、神は人のために女を造られたのでしょうか？

（適用）女が造られた目的から、神が喜ばれる夫婦の在り方について考えてみましょう。

＜心に残ったみことばや気づき＞

＜今日の祈り＞　（教えられたことを短い祈りで表す）